

地域と医療で咲くコミュニケーション



2018

1月

No.44

あまが咲



兵庫県立尼崎総合医療センター

Amagasaki General Medical Center (AGMC)

だより

[巻頭]

病院長 新年のご挨拶



本院1階 中庭庭園「癒やし」

〔院内専門センターのご案内〕 神経・脳卒中センター
「脳卒中は時間との勝負です！」

～カテーテルを用いた血栓回収療法が新たに加わりました～

- [AGMCニュース] 第16回大阪千里メディカルラリーに出場してきました。
- セミナーのご案内
- スタッフのつづやき
- ぶらり〜っと病院探訪



兵庫県立尼崎総合医療センター 病院長 藤原 久義

あけまして
おめでとう
ございます

病
院
長
新
年
の
ご
挨拶

戌



<目指すこと>

- ①病院完結型から本格的な地域完結型医療へ
連携・協調して高度急性期・高度専門・先進&政策医療を担う!
- ②医療のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院!

移行期は終わり、新たな飛躍のスタート

統合病院「兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）」は開院以来2年半経ち、移行期は終わりました。今年から新たな歴史が始まります。

昨年の稼働率は95%、在院日数11日、救急車約1万1千台/年（全国3位、関西1位）と、多くの患者さんにご利用いただき、ありがとうございました。また、AGMCは研修医に人気があり、一次指名数で関西ではトップでした。

大型の新型ジャンボ機の初飛行に例えるなら、満員の乗客を乗せて、滑走路を助走・機首を揚げ、上昇していたこれまでの時期から、いよいよ水平飛行に移り、青空の中で、スピードをぐんぐん上げる時期になりました。

病院完結型から本格的な地域完結型医療へ

— 高度急性期・高度専門・先進&政策医療を担う —

AGMCは、730床、医師数336名、看護師数1,114名、職員数計約2,000名で、診療・研修・教育に加えて、研究も重点課題とする我が国を代表するマグネットホスピタルです。尼崎市のみならず、人口約175万の阪神南・北地域・約45万人の大阪市西部地域を対象にした大規模なER型救命救急センター、ICU・HCU計143床の重症系病床、低侵襲心血管治療センター、ハイブリッド手術室やロボット手術室を含む19手術室、最新鋭のがん診断・治療設備等がフル稼働しています。

国の医療計画「地域包括ケアシステム」&「地域医療構想」が始まります。本院の役割は、阪神南・北地域の医療・介護全体と連携・協調し、高度急性期・高度専門・先端・政策医療の部分を担うことです。そのため、本年1月からスタートする尼崎市医療・介護連携支援センター「あまつなぎ」にも協力させていただきます。

医療水準のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院を目指す!

— 量から質への転換 —

AGMCは建物・設備等の量的面ではかなり充実しました。これからは、より重症患者を対象とする等、質の充実に転換する時期に来たと思います。また、医療水準とマネジメント・サービスは車の両輪で、良い病院は、必ず、両方共に優れています。このため、PFM(patient-flow-management) -AGMC等をさらに発展させ、外来・入院・退院・転院まで一貫したサービスを提供します。

本院に対する皆さんの期待の大きさをひしひしと感じています。職員一同、皆様の健康を守るため、断らない医療&納得・安全医療をモットーに、一層、工夫・改善してまいりますので、一層のご支援、ご鞭撻、ご協力をお願い致します。

平成三十年一月一日

兵庫県立尼崎総合医療センター 病院長 藤原 久義

神経・脳卒中センター



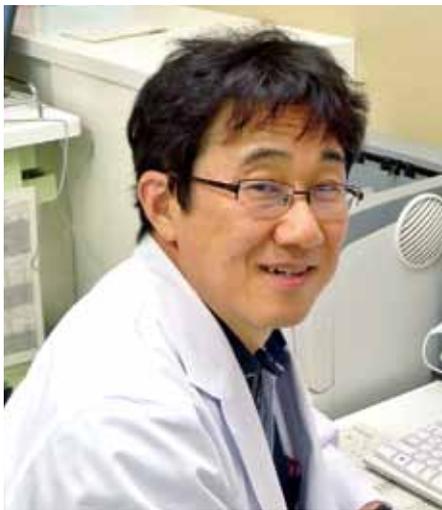
脳卒中は時間との勝負です！ ～カテーテルを用いた血栓回収療法が新たに加わりました～

院内専門
センターの
ご案内

複数の診療科・部門を一つに
まとめ、診療機能を統合させた
当院の(センター)を
ご紹介します。

神経・脳卒中センターの特徴

脳神経外科、神経内科の医師や看護師、リハビリテーション技師、MSW等が連携して、患者さんの治療、リハビリから転院相談、社会復帰の準備など、さまざまな援助を行っています。



神経内科
科長

影山 恭史

- 日本神経学会代議員 ● 日本神経学会専門医
- 日本神経学会指導医
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本脳卒中学会専門医
- 日本リハビリテーション医学会認定臨床医
- 日本認知症学会専門医 ● 日本てんかん学会評議員



脳神経外科
科長

山田 圭介

- 日本脳神経外科学会 専門医、指導医、(代議員)
- 日本脳卒中の外科学会技術指導医
- 日本脳卒中学会 専門医、(評議員)
- 日本脊髄外科学会 専門医



脳神経外科
医長

大川 将和

- 日本脳神経外科学会専門医
- 日本脳神経血管内治療指導医 ● 日本脳卒中専門医



リハビリ
テーション部
理学療法士

出口 恵

リハビリ
テーション部
言語聴覚士

芝切 圭子



地域医療連携
センター
医療ソーシャル
ワーカー

酒井 麻帆

地域医療連携
センター
医療ソーシャル
ワーカー

溝渕 智也

組織構成

脳神経外科医師、神経内科医師、SCU看護師、リハビリテーション技師
MSW

提供する診療体制や診療内容

当センターでは、薬による血栓溶解療法のみならず、カテーテルによる血栓回収療法も24時間可能であり、救急隊からの連絡があった時点で、脳卒中治療チームが準備を開始します。患者さんの到着から、画像診断、各種検査、治療開始までを1分でも短縮しようと日々、努力しています。その結果、従来の血栓溶解療法では救えなかった患者さんに対してもカテーテルによる血栓回収を行うことができるようになり、患者さんの社会復帰率も向上しています。

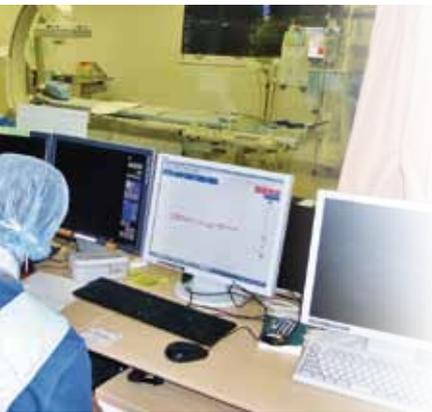


カンファレンス風景



血管内治療医

血管内手術室風景



SCU看護師

私たちは、患者さんの少しの変化も見逃しません!!

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

脳卒中は、時間との勝負です。急に左に示すような症状が出現すれば、ただちに救急車を呼んでください。

すぐに症状がよくなっても、ためらわずに受診してください。





左上から:救命士 西村、看護師 迫田、看護師 高木、医師 山内
左下から:救命士 森、医師 河内



第16回 大阪千里 メディカルラリーに 出場してきました。



小児救急集中治療科 河内晋平



2017年10月21日、兵庫県立尼崎総合医療センター代表として第16回大阪千里メディカルラリーに出場してきました。メディカルラリーとは、「医療チームが、シナリオに沿って模擬患者を診察し、限られた時間内にどれくらいの確に診断と治療を実施することができるかを競う技能コンテストのこと(千里救命救急センターHPより引用)」です。

本大会は医師、看護師、救急救命士各2名の計6名でチームを組み、吹田市近辺の公園やホテル、大型ショッピングモールなどを利用して、大規模災害や避難所を想定したシナリオステーションを回り、救命のミッションをこなすという大規模なものでした。連日仕事終わりや休日を返上して練習を重ね、全国の救命センターの強者が集まる歴史、規模、レベルともに国内最高峰の大会で、初出場の去年の成績の10位を上回る20チーム中6位と、躍進することができました。この順位は周囲の方々のサポートなしでは決して取れない順位だったと思います。

今後も救急医を中心にこうした大会への出場を重ねることで、病院全体の診療技術向上につなげていきたいと考えています。



セミナーのご案内



第67回 市民すこやかセミナー

テーマ 『高齢者に多い誤嚥性肺炎 ～原因・症状・対策～』

【講師】 県立尼崎総合医療センター

●呼吸器内科医師 遠藤和夫

●言語聴覚士 高瀬絵里 ●歯科衛生士 岡 香織

【日時】 平成30年2月16日(金曜日) 午後2時～3時30分

【場所】 県立尼崎総合医療センター 講堂(1階) 参加費:無料(予約不要)

★お問い合わせ: 県立尼崎総合医療センター 地域医療連携センター ☎ 06-6480-7000(代表)

多くの方の
ご参加を!

スタッフの
つぶやき

皆さんからのご相談・ ご不満をお伺いします！



業務支援課長 中山和則

みなさん、こんにちは！

「業務支援課」とは何をやっているところなのか、ピンとこない方もいらっしゃると思います。県立病院の中で、尼崎総合医療センターだけに設置されている特化した組織です。

ここでは、患者さんやご家族からの相談ごとへの対応、司法関係機関との連絡調整、医療を巡る様々な事案などの対応を行っています。また、最近では、日本語でのコミュニケーションが困難な外国人の方の受診が増えていますので、医療通訳のご案内も行っています。

当課相談員は、365日、24時間体制で現場に駆け付け、患者さんやご家族のご意見・ご不満をお聞きしたり、トラブルの対応に当たっていますので、お困りの際はご遠慮なくご連絡ください。

ぶらり〜っと 病院探訪

快適な入院療養を
陰から支援

リネン室



当センターの
1日における
シーツ交換の数を
ご存知ですか？



病 床数700床を超える当センターのシーツや枕カバーの交換って一日にどのくらいの量があるのでしょうか？ 今回はリネン室を訪れてみました。

リネン室に入ると、女性職員が手際よく枕カバーのセッティング作業をされていました。リネン室で仕事されているのは全て女性で、お正月元旦を除く364日、毎日仕事をされているようです。主な仕事は、退院された患者さんのベッドのシーツ交換ですが、その数が一日になんと100台以上!!

作業を見させていただきましたがとても手際よく、且つ丁寧にされていました(1台約5分)。休憩時間以外は座る事もなく、その作業は、各病棟リネン庫へ配布・使用済リネンの回収とその仕分け・当直室と退院ベッドのメイキングとかなりの肉体労働です。

職員の一人に話を伺うと、退院された患者さんから心温まるお手紙をいただいた事があって、とてもやりがいを感じられたそうです。「これからも気持ちよく過ごしていただけるよう、真っ白いシーツを張り続けていきます!」と力強く言われていました。



編集後記

本号が発刊される頃は、年も明けて一段落していると思います。今年はサッカーワールドカップが6月に開催されるので待ち遠しい限りです。あまが咲だより作成にあたっては、院内の出来事や最新の医療などを皆さんに知っていただけるような構成および内容にしようと、毎月熱い議論をしています。ワールドカップにも負けぬ実のある情報を今年も発信したいと思います。(I.U.)



兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL 06-6480-7000(病院代表) FAX 06-6480-7001

URL: <http://agmc.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎総合医療センター

検索